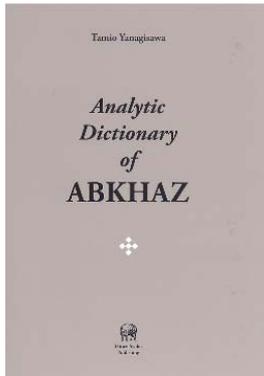


**研究者総覧：柳沢 民雄 (YANAGISAWA, Tamio)**

氏名	柳沢 民雄 (YANAGISAWA, Tamio)	
職名	教授	
所属講座	国際多元文化専攻東アジア言語文化講座	
学位 (専攻分野)	修士 (文学)・名古屋大学	
メールアドレス	<a href="mailto:k46413a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp">k46413a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp</a>	
研究分野	北西カフカース語学	
	言語類型学	
	バルト・スラヴ語学	
現在の研究テーマ	アブハズ語の文法記述	
所属学会	Japanese Society for Slavic and East European Studies	
	日本言語学会	
	日本ロシア文学会	
主要著書・論文	<p><i>Analytic Dictionary of Abkhaz</i> (ひつじ書房, 2010, xxxvi + 599).</p> <p>『ニューエクスプレス・スペシャル ヨーロッパのおもしろ言語』 (町田健監修, 白水社, 2010, 8-27).</p> <p>Schwa in Abkhaz (<i>Japanese Slavic and East European Studies</i>, 2005, No.25, 25-36).</p> <p>Accentuation of the Low Lithuanian (Zhemaitian) Dialect (<i>Japanese Slavic and East European Studies</i>, 1997, No.18, 129-164) (in Russian).</p> <p>「ロシア語のアクセント法について」『日本ロシア語ロシア文学研究』25、1993、105-112.</p>	
自己紹介文	<p>ここ十数年、アブハズ語の研究を行っている。最近、フィールド調査から得た資料を基にアブハズ語の辞書を出版した。なぜこの言語を研究することになったのかを書いて自己紹介としよう。大学 (大阪外大) の専攻はロシア語、大学院では言語学を専攻した。専門は亡き恩師と同じくバルト・スラヴ語、授業では印欧語比較文法を読んでいたというのに、非印欧語の少数言語を調査してみたくなった。その遠因は、院生時代に研究室の本棚の中に埃にまみれたボアズ編『アメリカ・インディアン諸語ハンドブック』を偶然に目にしたことかもしれない。いつかサピアの</p>	 <p><i>Analytic Dictionary of Abkhaz</i> (2010)</p>

